

建設アスベスト W判決に向け全力 7連勝で世論高め解決へ

9月15日、東京地裁で首都圏建設アスベスト訴訟第2陣19回期日が行なわれました。この日の法廷は、前回から担当する裁判長が交代したことから更新弁論を中心に進められました。



東京地裁前で勝利に向け団結を固める原告をはじめとする集会参加者

建設アスベストのたたかいも、いよいよW(ダブル)判決(10・24横浜地裁、10・27東京高裁)の「大ヤマ場」。衆議院議員会館での報告集会で、水口弁護士は「W判決で勝利すれば、国は7連敗となり、こうなれば過去の公害裁判の例からも解決すべきだ」という世論が盛り上がるはず。全面解決に向けてがんばりましょう」と話しました。その

後、野本事務局次長が、①被告企業との交渉を恒常化、②国会議員の3分の2の賛同獲得、③早期解決を国に求める地方議会の意見書採択という3つの法廷外のポイントを説明し、10月3日の院内集会などの行動を提起しました。

市民と野党の共闘で 大義なき解散総選挙で勝つ

安倍政権の戦争法強行からまる2年にあたる9月19日、国会正門前に1万5000人の市民(東京土建は52人)が集まり、月例の総がかり行動が行なわれました。最初にスピーチをしたのは総選挙が確定的になった情勢



「誰の子どもも戦争で殺さない」と訴える澤口香織さん

「共・志位和夫衆議院議員」、「安倍退陣、安倍退治をめぐり野党勝利に市民の力を」(社・福島瑞穂参議院議員)とそれぞれ訴え、参加者は「野党は共闘のコールで応えました。また、戦争法に反対するママの会(大田)の澤口香織さんは「選挙に勝つには、市民と野党の共闘しかない。憲法改正の発議をさせない。誰の子どもも戦争で殺させない。皆さんががんばりましょう」と訴えました。



講演する金子勝さん

福島に思い寄せる ごう慢推進アベ政権にNO

9月18日、代々木公園B地区で「さようなら原発」の活動が展開され、9500人の市民(東京土建から190人)が参加しました。

12時半から始まった集会は、野外ステージ(メイン)は、

原発でガラパゴスに 金子勝先生の経済ばなし

【目黒・加しました】金子先生は、アベはうそつき、息を吐くようにうそをつく。このことは戦争指導者に必要。自分は戦争の危機をあるのは嫌いだ。がもしかしたら...と語っている。その理由として、小泉内閣の「自民党をぶっ壊す」以後官邸に権力が集中し、前事務次官の前川さんが言う「行政がゆがめられた」事態になった等々。ラジオ以上に際どい話を3時間しゃべり通して会場を沸かせました。

今月の主張

歪んだ税務行政ただせ

2013年1月、国税通則法の改正による税務調査手続規定が実施され、調査の開始手続が終了手続が明確化されました。しかし、事前通知は電話で行なうというもので、書面の通知はされていません。通知項目は11項目ありますが、完全に通知されているのか疑問です。実際に調査連絡のみで事前通知がされない調査もあり、事前通知について回答を求める

と、税務署員からは「何のことが」「法改正されて通知しなくてもよくなった」など、事前通知義務を知らないか、または故意に誤った対応がされています。以前は「聴取書」という「質問応答記録書」という書面への署名押印を求める例が増えていきました。これは、申告漏れの物証や他人の証言がない場合に本人に証言させるものです。以前は「聴取書」という「質問応答記録書」に署名押印を求め、仮装・隠ぺいなどを裏付ける直接的な証拠がない場合に威力を發揮するとされ、重加算税を課すためのものです。

求め法的な根拠はありません。しかし実際の税務調査では悪質とはみなされないケースでも、税務署員が「質問応答記録書」に署名押印してはならないと調査は終了しない。などと納税者に偽り、書面を提出させる事例が発生しています。「自白調査」といってもよい「質問応答記録書」は税務調査で強制はできないし、してはいけないものです。東京土建はこうしたゆがんだ税務行政に対して11月に国税庁交渉を実施し、抗議と是正、税務署員教育の徹底を求めています。



現状とたたかいをアピールする福島からの参加者と自主避難者

3千万署名集めよう 中野ゼロを超満員1500人

9月8日、中野ゼロホールで「安倍9条改憲NO! 全国市民アクション9・8キックオフ集会」が開かれ、1500人(東京土建からは75人)を超えて市民が参加しました。冒頭、総がかり行動実行委員会(以下、総がかり)の高田健さんが「立憲主義の原則に最後に、総がかりの小田川義和さんは「待たれていた」全国統一署名を披露し、来年5月までに3000万人分を集めることなどの行動提起をしました。

戦争させない憲法守れ原発いらぬ